

教員紹介

上石美加子 教授

専門分野：イギリス近代詩

研究内容 イギリス・ロマン派の詩人たち、前期のワズワース、コールリッジから後期のバイロン、シェリー、キーツの詩作品を主な対象として、18世紀以前の「自然観」から19世紀以降の「自然観」の変遷に照らしつつ、自然と人間の関係性について研究している。人間の環境意識や自然の位相、恐怖と驚愕が共存する自然の崇高性に注目しながら、詩人の持つ複層的な視線が、自然の大きさ、色彩、形状、音をどう捉え、詩人の生み出す想像力の源泉となっていたのかについて模索している。

研究業績

1. "From Lucy to Lucia: Walter Scott's *The Bride of Lammermoor* as Adapted by Donizetti." *European Journal of English Language and Literature Studies (EJELLS)* Vol. 8. Issue. 4. June, 2020.
2. "Reading Early Modern Poetry in University Classrooms: Focusing on Students' Real-Life and Active Learning." *International Journal of English Language Teaching (IJELT)*. Vol. 8. Issue. 3. April, 2020.
3. "Anglophone Literature Revisited: A Compass for English Language Education in Japan." *Cultures and Communication*. Vol.37. February, 2017.

東 雄一郎 教授

専門分野：米文学

研究内容 アメリカ詩を中心としたモダニズム並びにポストモダニズム研究。19世紀のホイットマンやディキンソンをはじめ、20世紀のエズラ・パウンド、エリオット、ウィリアムズ、ハート・クレイン、カミングズ、ジェイムズ・ライト、ギンズバーグ、21世紀のロバート・ブライ、メリー・オリヴァー、チカーノの代表的な詩人、ゲーリー・ソトなどを主な研究対象としている。現在、積極的に取り組んでいる研究テーマは、脱アングロ・アメリカン文学、アメリカ文学の越境性、エスニックの多民族的な視座から捉えるアメリカ詩である。

研究業績

1. 『ハート・クレイン詩集・書簡散文選集』南雲堂、1994年
2. 『記憶の宿る場所』(共著)思潮社、2005年
3. 『木と水と空とーエスニックの地平から』(共著)金星堂、2007年
4. 『アメリカ子供詩集』国文社、2008年
5. 『完訳エミリー・ディキンソン詩集』(共訳)金星堂、2019年

逢見 明久 教授

専門分野：シェイクスピア劇の翻案について

研究内容 現在は『ロミオとジュリエット』の由来であるイタリアの物語がどのように成り立ち、シェイクスピアに至るまでに、どのように受容されたのかについて関心がある。それぞれの物語を作者ごとに整理して、比較検討しながら、翻案作家としてのシェイクスピアの個性を見いだしたい。さらに、映画や歌劇なども含めた翻案についても研究課題としている。

研究業績

1. 「オリヴィエ版映画『リチャード三世』ー三つの戴冠式、『英米文学』第41号、駒澤大学文学部英米文学科（平成18年）
2. 「ゼフィレリ版映画『ロミオとジュリエット』、『英米文学』第45号、駒澤大学文学部英米文学科（平成22年）
3. 「マッケラン版映画『リチャード三世』ー現代劇に至る背景について、『英米文学』第46号、駒澤大学文学部英米文学科（平成23年）
4. 「ロミオとジュリエットの物語におけるヒロインの自死の系譜の考察、『英米文学』第48号、駒澤大学文学部英米文学科（平成25年）
5. 「ルイーダ・ダ・ポルトの『ジュリエッタの物語』についての考察ーベンドー二版を中心に、『英米文学』第49号、駒澤大学文学部英米文学科（平成26年）

川崎 明子 准教授

専門分野：イギリス小説

研究内容 小説を中心に言語芸術の可能性を探っている。ブロンテ姉妹やチャールズ・ディケンズ等の19世紀のイギリスの小説家の作品を主に扱っている。中でも語りの技法や歴史表象に注目している。具体的には、小説における語りの形式や語り手の設定は内容をどう限定し印象づけるのか、作品における歴史的要素と作家の個性はどのように統合されているのか、これらは時代によりどう変遷したのかなどである。

研究業績

1. 『ブロンテ小説における病いと看護』春風社、2015年
2. "Japanese Adaptations of *Wuthering Heights*: Taeko Kono, *Gikyoku Arashi-ga-oka*, Minae Mizumura, *A True Novel*, and Nanae Aoyama, *Meguri-ito*." 日本ブロンテ協会編『ブロンテと19世紀イギリス 日本ブロンテ協会設立30周年記念論集』大阪教育図書、2015年
3. 石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014年（主な担当箇所：19世紀の小説家、「ヴィクトリア時代」、「児童文学」、「恋愛と結婚」）

川崎浩太郎 准教授

専門分野：アメリカ文学

研究内容 ウォルト・ホイットマンやエミリー・ディキンソンを中心として、19世紀のアメリカ文学を、主に民族、階級、セクシュアリティなどの観点から研究している。また、19世紀末までの作品と、20世紀以降の文学作品や他の表象・文化との関係にも関心がある。

研究業績

1. 『ノンフィクションの英米文学』金星堂 2018年
2. 『私の好きなエミリー・ディキンソンの詩』金星堂 2016年
3. 『アメリカン・ロードの物語学』金星堂 2015年
4. 『亡霊のアメリカ文学』(共著)国文社 2012年
5. 『ホイットマンと19世紀アメリカ』(共著)開文社 2005年

北原 賢一 准教授 専門分野：英語学	
研究内容	現代英語の文法・語法に関わる諸現象について、理論言語学（語彙意味論・認知言語学・構文文法・語用論）的観点から研究を行っている。正規表現を使用したコーパス調査に基づいて記述的考察を行うことや、映画や海外ドラマの中の口語英語の実態調査にも関心をもって取り組んでいる。具体的には、項構造の成り立ち（同族目的語、結果目的語、動作表現目的語、軽動詞表現、結果表現、不定詞付き対格表現、補文の構造、前置詞句主語、道具主語など）、法助動詞の意味論、時制・アスペクトの仕組み、関係詞の働きなどを研究テーマの中心に据えている。また、近年は、英語学と英語教育の接点を求めて、学習英文法の在り方そのものについて検証し、研鑽を重ねているところである。
研究業績	1. 「前置詞句が文の主語になるとき — 例外的言語現象の背後にある意味の働き」, 現代英語談話会（編）『英語のエッセンス』, 大阪教育図書, 2019.12. 2. 「[不定詞付き対格] 表現の意味機能と語用論的分業」, 『英米文学』第54号, 2019. 9. 3. 「英語学と映画英語教育の接点 — Full Metal Jacket (1987) における “You talk the talk. Do you walk the walk?” の翻訳」(第6回映画英語教育学会優秀論文賞受賞論文), ATEM Journal vol. 22, 2017. 2. 4. 「同族目的語構文と軽動詞構文」, Reitaku Review vol. 18, 2012. 6. 5. 「動詞dieと同族目的語構文 — 語彙・構文的アプローチによる記述的考察 —」(第2回英語語法文法学会奨励賞受賞論文), 『英語語法文法研究』第18号, 2011.12.
佐藤 真二 教授 専門分野：英語学（音声学）	
研究内容	accents of English（地域や社会階級、年齢、性別などによる発音の相違）の研究。 こうした発音の相違は、英語という言語の変化と密接に結びついており、英語の音声および音声体系に関しての、共時的のみならず通時的の研究となる。ロンドンで2000年から2002年にかけて行った実地調査で収集した音声資料を分析し、ロンドンのaccentに関して、二重母音や、/l/, /r/等の変種などを中心に研究を行った。現在は、intra-speaker variationの研究もあわせて、singerの発音の研究を進めている。
研究業績	1. 『シェイクスピア大事典』日本図書センター, 2002 2. 「London /ei/ variants by social class, gender and age」 駒澤大学『英米文学』第38号, 2003 3. 「London L Vocalization」 駒澤大学『英米文学』第40号, 2005 4. 「The accent of John Lennon 6 :Live performances and studio recordings」 駒澤大学『英米文学』第53号, 2018 5. 「Variability in rhoticity with reference to North American singers: an introduction」 駒澤大学『英米文学』第54号, 2019
モート, セーラ 教授 専門分野：日英美術文化比較研究	
研究内容	日本美術とイギリスを含めたヨーロッパ美術との比較研究、および美術と文学の関連を主な研究領域としている。とりわけ関心をもってしているのは、禅と画、特に14世紀以降の日本の禅の書画家である風外慧薫、白隠慧鶴、太田垣蓮月などであり、彼らの書画に対する思想とヨーロッパの美術思想などとの比較研究を行っている。同様にイギリス小説と美術の関連にも関心をもっている。
研究業績	1. 「禅と書画とヨーロッパ人」『大法輪』第72巻7号, 平成17年7月 138-143頁。 2. <i>Ken Zen Sho: the Zen Calligraphy and Painting of Yamaoka Tesshū</i> . [Shared authorship]. Tokyo: Bunkasha International. 2008. pp. 26-93. 3. 'The Zen Calligraphy of Hakuin Ekaku.' [Individual authorship]. <i>The Middle Way. Journal of the Buddhist Society</i> . Volume 85. No. 2. 2010. pp. 91-98. 4. 「大田垣蓮月の世界—変革の時代を生きた女性芸術家—」『駒澤大学 佛教文学研究』第18号, 平成27年1月 173-202頁。 5. 'The Painting and Calligraphy of the Eighteenth-Century Japanese Literati Painter Ike Taiga.' [Individual authorship]. <i>The Transactions of the Asiatic Society of Japan</i> . Fifth Series, Volume 7, 2015. pp. 202-217.
本村 浩二 教授 専門分野：20世紀アメリカ小説	
研究内容	近年の文化多元主義やポストコロニアリズムという認識形態のパラダイム・シフトに合わせて、人種、階級、ジェンダー、宗教、地域などの視点を通し文学表象の複雑な様態を領域横断的に捉えることを目指している。主たる研究対象としているのは、アメリカ社会のなかで構造的に周縁化されてきた少数民族集団の文学である。特に、William FaulknerやEudora Weltyといった南部作家、Richard WrightやToni Morrisonといった黒人作家の作品に関心がある。
研究業績	1. 「ニューオーリンズのカラード・クレオールとしてのボン」『フォークナー』第19号, 松柏社, 2017年。 2. 「Absalom, Absalom! におけるThomas Sutpenとキリスト教」『北海道アメリカ文学』第32号, 日本アメリカ文学会北海道支部, 2016年。 3. 『ターミナル・ヒギニング—アメリカの物語と言葉の力』(共著), 論創社, 2014年。 4. 『テキストの対話—フォークナーとウェルティの小説を読む』(単著), 論創社, 2013年。